「教育」の専門図書館

農文協図書館 その性格と特徴

農文協図書館創立二〇周年記念にあたって
農文協の出版文化活動の一つの核

出版物の流通革新

農文協図書館創立二〇周年記念号をお送りします。

農文協図書館は農文協の出版文化活動のなかの一つの核として運営されております。

もう一つの核として、農業書センターがあります。販売する本を農業書に特化した専門書店で、東京大手町JAビル地下一階にあります。農文協発行のすべての本はもちろん、現在流通している農業関連書籍、雑誌を網羅して販売しています。さらに全国の農業関係団体が作成した一般には流通していない書籍・資料の販売にも力を入れています。この書店においでになれば、あらかたの農業書をよく見た上で購入することができます。

さらに、地方の方々のために電話・FAX・インターネットによるご注文も受けつけ、迅速に発送しています。インターネットによる販売システムとして「田舎の本屋さん」を設け、種々のサービスを行っています。この「田舎の本屋さん」は農業書に限らず、日本のすべての書籍を扱っています。会員になると送料は無料です。

リアル&バーチャル図書館

農業書センターと「田舎の本屋さん」によって現在流通している書籍・ビデオはすべてカバーしていますが、絶版の本、希覯本の閲覧は図書館に頼るほかありません。そのための施設が農文協図書館です。この図書館の特徴の第一は農業・農村・食料・食品・食農教育の専門図書館であること、第二に個人文庫を蔵していること、第三に農文協の「日本農書全集」「日本の食生活全集」「安藤昌益全集」の編さんに関わる資料を保存していることです。

農文協はインターネット上でもルーラル電子図書館を開設しています。これは農文協の「農業総覧」「農業技術大系」「日本の食生活全集」月刊雑誌「現代農業」「隔月刊誌「食農教育」の全記事約一〇万頁分（現代農業」は1985年から、食農教育は創刊号から）を即座に検索し、プリントアウトもできるもので、有料ですが一部無料の頁もあります。お試し下さい。

「信州・つがいけ食農学習センター」（長野県小谷村梅池高原の宿泊施設）は自然観察・食農教育の基地として活用されており、ここにも農文協全書籍が開架式で備えてあります。

この「農文協図書館創立三〇周年記念号」では、以上のような農文協の出版文化活動、読書運動の全般をご紹介しました。ぜひご活用いただきたいと存じます。

食と農の専門図書館

農文協図書館は、農林水産、農業技術、農村、農学、農民運動、食料、環境、健康、栄養・料理、食農教育などの分野を網羅する専門図書館で、民間の農林水産関係専門図書館としては全国唯一の存在である。

農山漁村文化協会（農文協）発行の全書籍、全雑誌、全CD-ROM、全ビデオを架蔵・公開するとともに、上記分野の図書の収蔵をすすめ、閲覧・貸し出しを行なっている。蔵書は個人文庫を合わせて約七万冊である。

開館の経緯と現状

農文協図書館は、一九八一（昭和五六）年、社団法人農山漁村文化協会の寄付によって設立認可された財団法人である（開館は一九八二年二月二五日）。

農文協は、一九八〇年から始まる第一次十ヵ年計画、一九七〇年から始まる第二次十ヵ年計画を遂行した。農家の自立・自給を支援することを基礎に据えたこの計画は、多くの支持を得て、多彩な文化財を世に送り出すとともに、経済的な余裕をもたらした。その蓄積を収益事業ではなく文化事業へ振り向けた。四億八千万余円の寄付によって、財団法人農文協図書館が設立されたのである。

設立趣意書は、農文協の活動の中から生じた図書館設立の必要性を次のように述べている。

一つは、「農文協がここ数年努めてまいりました農書の企画は、全国各地にわたっての農書の発掘作業であって、これまで広く知られていなかったものを世に紹介しただけでなく、これに付随して多くの古文書や諸資料が収集されてまいりました。これらの保存と整理は一つの文化運動であります」

ここで述べられている「農書の企画」は「日本農書全集」としてその後、四半世紀間継続して発行され、二〇〇一年五月、全七二巻と別巻をもって完結した大事業であった。

二つ目は、「出版などという仕事を進めてまいりました関係上、研究者が個人蔵書の整理・保存に測り知れないご苦労をされている現実を深く理解してきましたし、蓄積された蔵書が研究者の没後に散逸するのは悲劇といわねばなりません。農文協図書館は、こうした蔵書の寄贈または寄託をえて、その整理・保存・公開・利用という課題の解決に当たることが意義ありと考えております」

こうして、農文協図書館は初年度図書購入費九三〇万円、公開蔵書四六〇〇冊をもって一九八二年（昭和五七）二月二五日に開館した。そして今年、二〇周年を迎える。

農文協とお付き合いのあった研究者からの蔵書寄贈も増え、現在、整理公開されている個人文庫は近藤康男文庫、守田志郎文庫など一六を数え、農文協図書館の特徴をなすにいたっている。

農文協図書館の開架式書架と閲覧者

九七年（平成九）からは蔵書のコンピュータ管理を始め、二〇〇〇年（平成一二）よりインターネット上に公開した。

農文協図書館 三つの特徴

農文協図書館には、専門図書館としての特徴のほか、三つの特徴がある。

第一は、先にも述べた多くの個人文庫の収蔵・公開である（次面表参照）。

第二は、「日本農書全集」全七二巻に収録した農書三〇〇余点の底本のコピーを製本し、収蔵していることである。全集に翻刻された文書の底本を一ヵ所で全点閲覧できるようにしたことは初めてのことである。

なお、『安藤昌益全集』の編集代表・寺尾五郎氏ご遺族から蔵書と資料のご寄贈を得たのを機会に、その底本のコピーも農書と同様に整理を進めている。

第三は、一九八四年から一九九三年にかけて出版された「日本の食生活全集」全五〇巻のもとになった昭和初期の全国の話者三五〇人（関係者総数は五千人）の調査表を収蔵していることである。

この調査表は、一定の形式のもと、家族構成、田畑の栽培品、近隣の山野・河川・海からの採集品、購入食品、自家製の加工品・調味料、季節ごとの野良作業・年中行事、食事の内容、料理の作り方などを克明に聞き書きしたものである。

食生活が太平洋戦争の影響をうける以前の大正から昭和初期、日本に連綿と続いてきたわが家の食生活を語った人たちは一九八〇年代で八〇歳前後の方たちだった。今、ご存命の方はわずかである。二〇年前だからできた大事業である。

ときたま、研究者の方から、たとえば○○県の「○○の食」の家族構成や経営規模などについての詳細を知りたいというような質問を受ける。その際は、この調査表に立ちかえって調べる。ほとんどのばあい、要望に応えられている。

近藤文庫収蔵の農村調査等の資料

この調査表は食生活を単に料理としてだけ見ることなく、生活全体の中の食をとらえるために工夫をこらしたもので、この種の調査（聞き書）を企画される方はぜひ閲覧していただきたい。申込み下さればサンプルを送ることも可能である。

今後の方向

農文協の出版文化活動は別記のように多岐に渡っている。その一つの核としての位置を運営の基本方針としていく。

小中高校で「総合的な学習の時間」が設置されるのに伴い、食農教育が広範な広がりをみせている。各都道府県・市町村で地域の暮らし・産業等をまとめた副読本の作成も盛んである。それらの収集に努めたいのでご寄贈いただければ幸いである。また、市町村史の収集にも力をそそぎたいので、編集情報のご提供、完成書籍のご寄贈を仰ぎたい。逆に地域農書についての情報についてはお気軽にお問い合せ下さい。

農文協 〈地元学〉自分の足もとを知る

日本の食生活全集
20年の歳月をかけ完了。世界に類を見ない食の「国勢調査」
全50巻・各都道府県別編集
A5判・上製●各2900円
揃価145000円
全国300ヵ所、総勢5000人から食生活の聞き取り調査を実施。昭和初期、当時台所を守った主婦を対象に、食材、献立から、食にまつわる行事や生業、暮らしの全体まで取材。現在では高齢のため、最初にして最後の貴重な記録。

CD-ROM版 日本の食生活全集
全集50巻を収録。カラー写真15000点。多彩な検索機能で全国雑煮比べ、寿司比べなど瞬時に可能。
●120000円

江戸時代 人づくり風土記
自然と人間が活発に交流し、地域の教育力が発揮され、独自の産業・生活・文化を作り上げた江戸時代。その営みを、地域開発、町づくり、自治、教育、福祉、学芸、民俗など多様な分野ごとに発掘する郷土史読本。
〈監修〉会田雄次・大石慎三郎・他
〈各道府県版〉3500円・4500円
〈特別編集版〉東京版「大江戸万華鏡」●CD付10000円　沖縄版●CD付7000円　大阪版「大阪の歴史力」●10000円

索引巻 近世日本の地域づくり 200のテーマ
第50巻　環境、福祉、教育など現代の課題にそって江戸時代の魅力・200項目を解説し、本全集・都道府県版の関連記事を案内。●5000円

ご注文は 農文協（社団法人 農山漁村文化協会）〒107-8668 東京都港区赤坂7-6-1 TEL.03-3585-1141 FAX.03-3589-1387 振替00120-3-144478 URL http://www.ruralnet.or.jp/ 価格は税込

地域に開かれた「食と農」食農

利用案内

〈利用法〉

利用は登録制です。研究者、学生・一般と区分して図書館利用カードを発行し（手数料一〇〇円）、貸し出しをいたします。研究者とは、農林水産関係を専門的に研究・教育される方、あるいはこの分野の編集・著述にたずさわる方などを指します。研究者に限って公開書架以外の閉架式個人文庫を閲覧する便宜をはかります。

〈閲覧の方法〉

蔵書は二つに大別されています。

■公開書架

①公開書架から取り出して自由に閲覧できます。

②蔵書データはパソコンに蓄積されています。館内のパソコンでご自分で検索するか、館員にご希望の書名や著者名、あるいは出版者名を口頭で伝えてくだされば、検索して書架番号と分類コードをご案内します。

③「館内」のラベルを貼った図書を除いて、貸し出しをいたします。

■閉架書架

①現在、一六の個人文庫がデータベース化され、閲覧できますが、貸し出しはしておりません。

②受付で「閲覧票」を記入して閲覧・返却のチェックを受けてください。

③「日本農書全集」の底本コピー類、保存雑誌類、年鑑、団体史なども閲覧できますが、現在データベース化はされておりません。

〈貸し出しと返却〉

①貸し出し希望者には利用カードを発行します。登録の手数料一〇〇円と身分を証明するものを提示していただきます。

②貸し出しは一人一ヵ月五冊までです。

③遠隔地の方は、地元の公共図書館や大学図書館を通じて貸し出し申し込みをしてください。図書館同士の相互協力で、図書館を通じて貸し出します。

〈インターネットでの検索〉

インターネットのホームページ（農文協図書館＝http://www.ruralnet.or.jp/ruklib/）で公開書架、閉架書架とも検索できます。

〈開館時間と休館日〉

開館は午前一〇時から午後五時まで。休館日は毎週水曜日と日曜・祝日。八月と年末年始に臨時休館日。

〈交通案内〉

①JR吉祥寺駅・京王井の頭線吉祥寺駅下車。北口バス停の西武バス＝都民農園、新座栄、保谷、大泉学園、成増町、花小金井行きに乗車、いずれも関町南二丁目下車、進行方向徒歩一分、左側二階建ての白いビルの三階。

②西武新宿線武蔵関駅下車。北口バス停の西武バス、吉祥寺駅行きに乗車。

③西武池袋線大泉学園駅下車。南口バス停の西武バス、吉祥寺駅行きに乗車。

②③とも関町南二丁目下車、進行方向の反対側徒歩三分。

農文協名誉会長・農文協図書館理事長 近藤康男先生、百三歳の近況

現在、東京の上高井戸に長男の家族と住む。

午前七時に起床。自分で布団をたたみ、雨戸を開ける。これは運動のためになるから、必ず続けている。その後、血圧を下げる薬をのむ。

朝食は、米のご飯にみそ汁、具は野菜と卵ないろいろ。豊富・好物は金山寺味噌。

血圧測定をして貰って普通なら、月・水・金は練馬区の農文協図書館に二人でバス・電車を乗り継ぎ出勤する。出かけないときは、自宅で午前一時間くらい読書や書き物。ときには畑の手入れ、落ち葉の掃除。

図書館での昼食は、卵とじうどん。昼休み、三十分くらい午睡。午睡は大学の研究室でも行っていた。これは健康法の一つで、自宅でも同じ。午後、三時まで読書や書架の整理、書き物。三時のお茶で、秘書と談話。後は明るい内にバス・電車で帰宅。帰宅後は天気が良ければ、畑仕事や落ち葉の整理。

夕食は、息子と酒をやりつつ、家族とご飯を食べる。お菜は多い方だろう。

就寝は、九時と決めている。

農文協図書館に通うのは連動のためと好きな仕事を自由にすること。図書館に自分の図書資料約二万三千点を寄贈し近藤文庫として研究者にも閲覧させるが、自分の著述にも利用する。弱視になったので読書・著述はテレビ型の拡大読書器を利用している。1990年と2000年に、『農文協五十年史』『農文協六十年略史』の大著を完成した。

（原田　勉）

個人文庫の一覧

文庫名	冊数	特徴
近藤　康男	13,200	日本農業経済学の泰斗。自身の農村調査の原資料を含む。（詳細は本号1面参照）
守田　志郎	1,470	日本経済史・地方経済史関係の文献のほか、「二宮尊徳全集」全36巻、「日本経済大典」全54巻など。
山崎不二夫	1,360	専門の農業土木・河川工学・土地改良・耕地整理・土壌学・ダム関係のほか、食料問題、農業技術史、中国・ベトナム関係の文献が多い。
川田信一郎	1,680	気象・災害・科学技術論関係の文献、雑農技術に関する文献・資料、育種学・作物遺伝学・稲作多収理論の文献、植物の形態・細胞・穂・組織に関する内外の文献などを収蔵。
松尾　孝嶺	1,500	稲学の第一人者。稲育種・育種遺伝学・作物栽培学・遺伝生態学関係文献、「育種学雑誌」「農業技術」誌の第1巻からのバックナンバーなど。
福島　要一	850	農学、環境問題、平和問題、自然保護、環境教育などの分野のほか生協・消費者運動、農業教育、技術教育など。
浪江　虔	452	自治体民主化運動、読書・図書館運動の文献。「経済評論」「農業朝日」のバックナンバーを含む。
岩渕　直助	172	元農文協専務理事・副会長。「日本農書全集」「日本の食生活全集」などの大型全集を企画・刊行した。農文協図書館建設の推進者。「石川県町文化運動基本文献」「日本思想大系」ほか全収蔵。
団野　信夫	1,400	朝日新聞記者、日本農業のアナリストとして活躍した。農村問題・酪農畜産・食管制度・食料政策・農業経営関係の文献を収蔵。
菱沼　達也	500	元東京教育大学農学部教授で「総合農学」を講じた。馬産経済の実態調査報告書（馬政局が昭和12年から14年にかけて実施したもの）は貴重な資料。
大谷　省三	340	農業経済の分野に留まらず、技術論の分野でも活躍。この分野の文献を収蔵する。
岩崎　文雄	210	元筑波大学教授。サクラの研究者として著名。植物学、育種学の文献のほか、「日本作物学会紀事」「園芸学会雑誌」のバックナンバーを収蔵。
野口　弥吉	280	作物の受精生理、倍数性、カリ肥料の栄養生理、同化作用ならびに葉面散布など栄養生理、植物ホルモンの作用性の研究などに範にわたる文献を収蔵。
佐藤　正	2,260	元岩手大学教授。日本の風土に根ざした農業変革、農家・農協経営の確立に情熱を注いだ。社会主義、日本経済、哲学、世界経済、農民運動、農協問題など。特にマルクス主義関係の文献が充実。
石川　英夫	860	農業ジャーナリストとして活躍。主として日本農本主義論、日本農村問題、中国の農業、毛沢東関連資料など。
和田　博雄	400	吉田内閣の農相として農地改革を推進した。主として農地改革関係資料、憲法調査会資料、国会予算審議資料など。

※他に柏原孝夫文庫（獣医・畜産学）と寺尾五郎文庫（『安藤昌益全集』編集代表）があり、目下整理中です。

農文協　現代語訳　江戸期文献を身近に

日本農書全集　全72巻

江戸期日本の叡智、日本文化の原点―三百余点の農書を全国から発掘し、現代語訳

地域と向き合い、今、ここにあるモノ・コト・ヒトを最大限に活用した先人の叡智。生産から衣食住全般にわたる技能と暮らしが記された江戸期農書を二〇余年の歳月をかけ集大成。原文翻刻、現代語訳、注記、解題を付す。

A5判（26、71、72巻はB5判）・上製・箱入●各4200円～7500円、揃価411100円

【第Ⅰ期】全35巻〈編集委員〉山田龍雄・飯沼二郎・守田志郎・岡光夫　第Ⅰ期は地域自然とともにある農の営みを知る観点から「地域別」に巻を構成。

【第Ⅱ期】全37巻〈編集委員〉佐藤常雄・徳永光俊・江藤彰彦　第Ⅱ期は、地域における生産と消費を一体に捉える「地域形成」の視点に立ち「テーマ別」に巻構成。

〈代表的な収録農書〉⑫⑬『農業全書』宮崎安貞・貝原楽軒●揃10500円／⑭『広益国産考』大蔵永常●5200円／⑮⑯⑰『百姓伝記』著者不詳●揃8700円／⑱『会津農書』佐瀬与次右衛門●5500円

別巻　収録農書一覧―分類索引

成立地、分野別、現代的課題を解くキーワードからの分類など収録農書一覧、農法、衣食住など26項目の分類索引。●2400円

安藤昌益全集

日本エコロジズムの始祖

◆毎日出版文化賞・物集索引賞受賞作品

安藤昌益研究会編　A5判　上製箱入　揃価115500円

自然と人間の調和を基本とした万人平等のコミューンを構想するという、日本思想史上破格な思想。その現存する著作を集大成。底本を忠実に復刻した影印版、さらに全文書下し、現代語訳、注解、解説を付す。

全23冊

■現代語訳編①～⑦稿本自然真営道⑧～⑪統道真伝⑬刊本自然真営道　■資料編⑭～⑯上下　医学関係資料、自然真営道残簡ほか　■復刻編・影印版　⑰～⑲稿本自然真営道⑳～㉑統道真伝　■別巻　安藤昌益事典（著作目録、年譜、用語索引など）各4200円～6200円

ご注文は　農文協（社団法人 農山漁村文化協会）〒107-8668　東京都港区赤坂7-6-1　TEL.03-3585-1141　FAX.03-3589-1387　振替00120-3-144478　URL http://www.ruralnet.or.jp/　価格は税込